

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	令和7年度第2回武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	令和7年7月29日(火) 午後3時～4時50分
開 催 場 所	市民会館(さくらホール) 展示室
出席者及び 欠 席 者	出席者：倉持会長、森林委員、内野委員、桑原委員、佐伯委員、谷原委員、藤原委員 欠席者：なし 事務局：企画政策課長、企画政策課係長、企画政策係主任 事業所管課：職員課長、職員人事給与係長、防災安全課長、防災安全課災害対策係長、保険年金課長、福祉総務課長、高齢福祉課長、障害福祉課長、健康推進課長、子ども政策課長、子ども育成課長、子ども育成課児童担当課長、子ども子育て支援課長、子ども子育て支援課母子保健係長、子ども子育て支援課子ども家庭支援センター係長、スポーツ振興課スポーツ振興係長、教育指導課指導・教育センター担当課長、文化振興課長、図書館長
報 告 事 項	○ 所管課職員の出席について
議 題	1 令和6年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について 2 その他
そ の 他	○ 長期総合計画と総合戦略の一体的な策定について
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1：議論した意見を資料として取りまとめることとした。 議題2：特になし
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発言者) ○印=委員 ●印=事務局 ▲印=事業所管課	報告 所管課職員の出席について —事務局— 所管課職員が出席する旨の報告 所管課職員自己紹介 議題1 令和6年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について —事務局説明— 基本目標ごとの説明は、第1回にて行ったため省略する。 資料2の33ページ「②健康教室」について、資料の訂正が1点ある。「CSF 参加者数 R6」の「152人/年」を「165人/年」に訂正させていただく。 —第1回推進委員会での質問に対する回答— 資料「第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会における質問及び回答」について事務局が説明

—事前質問に対する回答—

資料「令和7年度まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会質問票」5から7までについて

(質問5) 基本目標2 合計特殊出生率について

令和4年から5年にかけて0.23ポイントと大幅に減少しているが、主な原因は何か。

▲ 合計特殊出生率は、15歳から49歳の女性の年齢別の出生率を合計したものであり、出生数の減少により、合計特殊出生率が低下をしていると考えている。本市特有の原因については、特定できない状況である。

ただ、令和6年度の市民意識調査では、調査対象が18歳以上ではあるが、10代、20代及び30代の未婚率が上昇をしている。平成30年度の市民意識調査と比較すると、10代で7.7ポイント、20代で8.6ポイント、30代で22.5ポイント上昇しており、未婚率の上昇も合計特殊出生率低下の一つの要因なのではないかと考えている。

(質問6) 資料2の20ページ「⑥予防接種情報システムの運用」について

年々登録者数が減少しているのは、乳幼児が減少していることが要因か。そうだとすると、目標値の達成は困難だと思うがいかがか。

▲ 予防接種情報システムは、予防接種の時期になると、対象者にプッシュ型で通知が送られるものである。また、合わせて市から予診票等の郵送もされる。

予防接種情報システムについては、妊娠届、新生児訪問、乳幼児健診等の時機を捉え、登録の周知を行っている。令和6年度は、妊娠届出者数328件に対し、システム登録者数が74.6%に当たる245件であった。今後も登録に向けて、周知を図っていきたい。

(質問7) 資料2の27ページ「(4)教育環境の整備」について

KPIの数値が令和6年度に大幅に下がった要因は何か。また、この数値はどのような計算式なのか。

▲ KPIの数値は、不登校児童・生徒を教育指導課が所管する、教育相談等で支援した割合であり、他機関による支援は反映していない。現況値である平成30年度の状況と比較すると、相談窓口の増加に伴い、他機関で支援を受けるケースも増加している。また、例えば令和5年度に教育相談室等で支援行った結果、令和6年度は学校に復帰した、あるいは他機関に繋がったというケー

スについては、K P I の数値に含めていない。

—【基本目標 1 の一部、2 及び 3】について、質疑・意見等—

○ 資料 2 の 12 ページ「⑤文化財の観光資源としての活用」について、ガイドマップ以外に活用している事例はあるか。

▲ 現時点ではガイドマップのみであるが、様々な企画等を行い、市の文化財を P R していきたいと考えている。

○ 資料 2 の 16 ページ「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」人の割合」等、アンケートをどのような形で取っているのか。

● 基本的には、各種計画を作る際に市民アンケートを実施している。計画期間については、概ね 5 年のため、5 年に 1 回実施するアンケートによって数値を把握している。

アンケートの実施は、住民基本台帳から無作為抽出を行い、回答は郵送やウェブ上で行う方法である。

○ 資料 2 の 21 ページ「⑧市役所男性職員の育児休業取得率の向上」について、素晴らしい実績だと思う。取得日数や目標達成につながった取組を教えていただきたい。

また、取得率が 100%に達しない要因を分析しているか。

▲ 取得日数は 30 日が 1 名、31 日が 2 名である。取組としては、条例改正やパンフレットの充実、テレワークの活用等を行った。

100%に達しない背景には、立場による取得のしにくさがあると考えている。今後もそれぞれの状況の把握に努める。

○ 女性職員の育児休業取得率はどうか。

▲ 100%である。

○ そうであれば、立場による取得のしにくさは理由にならないと思うので、しっかり推進してほしい。

○ 資料 2 の 17 ページ「認可保育所の入所待機児童数」について、保護者が希望する保育園に入れられない背景として、定員に空きがないことが課題なのか、あるいは担い手の不足が課題なのか、どちらなのか伺いたい。

▲ 両方の課題がある。保育士の確保に向けて、就職相談会を通じた潜在的な保育士の掘り起こしを図りたいと考えている。

○ 資料 2 の 18 ページ「②延長保育の充実」及び「③休日保育事業」について、これらはニーズが満たされていると理解して良いのか、あるいは潜在的なニーズがあるのか。

▲ 延長保育及び休日保育については、市民から要望等は届いておらず、一定のニーズは満たしていると認識している。

○ 資料 2 の 20 ページ「⑥予防接種情報システム」を含め、実績を件数ではなく、割合で出した方が良いと思うものがある。5 年

に1回のアンケートについても検討いただきたい。

- 現行計画の中では、設定した数値目標に沿った報告を行うが、次期計画の指標の設定に当たっては、委員の意見を踏まえて検討したい。

アンケート調査にて5年に1回しか数字を捉えられないことは課題だと感じている。一方で、重要な指標として捉えている重みのある数字でもあるため、今後の計画策定の際に検討していく。

- アンケートの数値や意見をしっかり把握してほしい。また、市民からの要望に対する5年間の市の取組内容やその成果が分かりやすく示されると良いと思う。

- 市民の意見や要望を課題として捉え、計画の方向性に反映させていきたい。

- 各課でしっかり取組んでいただきたい。

- 資料2の23ページ「③絵本読み聞かせ事業（図書館のおはなしの会）」について、「開催の方法や参加者の意向などが一致していない」とあるが、具体的な内容を伺いたい。

- ▲ 特にアンケート等は実施していないが、担当者と情報共有をしている。開催回数はコロナ禍以降減っており、回復しきれていないが、回数だけにとらわれず、本の選定やテーマ設定が必要だと感じている。

- 子どもたちにとって大切な事業なので、興味を持てるような演出を行い、多くの方に参加してもらえるようにしていただきたい。

- デジタル化の中で、絵本への興味も変化しているように感じるが、それを意識した取組はあるか。また小学校やPTAとの連携はしているか。

- ▲ 10年以上前から「ブックスタート事業」として3・4か月児健診に参加した親子に絵本を渡している。本に親しむきっかけを作り、またあわせて図書館のPRも行っている。

小学校では、朝読書を実施していることは承知しているが、図書館との連携は特にしていない。

- 子どもたちが本に親しめるよう、何かしら連携を図れると良いと思う。

- 資料2の23ページ「④で放課後子供教室の充実」及び24ページ「⑤放課後子ども総合プラン事業の推進」について、人材確保について触れられているが、担い手が大変な思いをしているなどの現状があれば伺いたい。

- ▲ 放課後子供教室に関しては、携わっていただいている方が高齢化し、子どもに対応することが大変という話も聞かれる。しか

し、活動時間が平日の昼間であるため、若い方をお願いするのは困難である。

- 子どもへの対応の問題は、専門職につなぐ仕組みも必要になってくると思うので、検討していただきたい。
- 資料2の22ページ「①移動式赤ちゃんの駅の活用」について、どのようなイベントに活用されたのか、また、今後貸出す予定があるのかを教えてください。
- ▲ 令和6年度は、村山デエダラまつり、観光納涼花火大会及び子育て関係のイベントに貸出しを行った。引き続き周知を図っていく。
- 資料2の26ページ「②英語検定」について、目標達成の課題として「中学校第3学年は高校受験とも重なるため受験率を上げることが難しい」とあるが、具体的な状況を教えてください。
- ▲ 年に2回の受験日のうち、2回目が2月であり、高校受験の時期と重なってしまうため、受験率を上げること難しいという状況である。
- 例えば1回目に全員受けるようにすれば、受験率は上がるということか。
- ▲ そのとおりである。しかし、すでに英検2級を取得している生徒もおり、全員の受験は難しい。また各家庭において受験に対する理解が得られていないという課題もある。
- 目標を達成できなかった理由の中の1つとして、すでに2級を取得している生徒もいるということに記載すると良いと思う。
- 資料2の26ページについて、「②英語検定」及び「③東京都統一体力テスト」は東京都の平均値との比較があると良い。
- 資料2の26ページ「②英語検定」について、中学校第3学年だけでなく、中学校第2学年にも対象を拡大できないか。
- ▲ 学習の集大成という位置付けであることから、中学校第3学年を対象としてきた。第2学年での受験も有意義であると考えため、検討する。
- 資料2の27ページ「不登校児童・生徒への教育相談等支援率」及び「①教育相談室事業・スクールソーシャルワーカー事業」について、課題として「学校の不登校への意識を向上させること」とあるが、具体的にどのような状況であるか伺いたい。
- ▲ 不登校については様々な要因があるが、学校においては、状況を把握し、早期に教育相談等につなげる活動に引き続き注力していただきたいと考えている。
- 資料2の31ページ「②風水害に対する防災訓練」について、

参加者数を伺いたい。

▲ 令和6年度に市で実施した総合震災訓練の参加者は、約500人である。その他、避難所となる小学校で実施した訓練にも、各100人程度の方に参加していただいている。

○ 参加者数が多く、素晴らしいと思う。

○ 資料2の30ページ「停電対策用資器材の避難所への備蓄」について、災害に対する備えが整ってきていることがうかがえるが、今後、備蓄する必要があると考えている資器材について教えていただきたい。

▲ 避難所には、蓄電池及び発電機を整備しているが、さらに電気自動車のバッテリーからの給電が可能である可搬型給電器の備蓄を進めている。動力源の異なる停電対策資器材を備えることが必要であると考えている。

○ 資料2の33ページ「②健康教室」について、金曜日及び土曜日の夜間に開催することで効果があったのか伺いたい。

▲ 健康教室については、コロナ禍以降、現在も定員を絞って運営している。参加者の固定化や、プログラムによっては内容の見直しも検討課題と考えている。人気のあるプログラムではキャンセル待ちが発生することもあり、また土曜日の開催も参加率が良く、効果的であった。

○ 年齢の制限がないのであれば、仕事帰りの成人を対象としたものや親子で学べるようなプログラムを設定すると参加者が増えるのではないかと思う。また参加しやすいよう、開催場所の検討もしていただきたい。

○ 各課が縦割りではなく、例えば健康推進課とスポーツ振興課が連携して市民の健康増進を図るといようなことは難しいのか。

● 現状では、組織の目的や役割に沿って各部署が事業を行っており、一定の機能を果たしていると思うが、そこから一歩進み、複数の部署が連携できるような仕組みについても検討していきたい。

○ 資料2の35ページ「⑥お互いさまサロンの設置・運営支援」について、概要に「多世代間の交流」とあるが、高齢者以外の方を呼び込む工夫や参加者の年齢層について教えていただきたい。

▲ お互いさまサロン事業は、介護保険の範囲内で実施しており、運営主体及び参加者ととも高齢者が中心である。

多世代交流の例として、市内幼稚園で場所をお借りしてお互いさまサロンを実施しているものがある。そこでは高齢者と子どもと一緒に折り紙や体操を楽しむ活動を行った。

○ 関係機関や各課とも連携を図ることで、新しい取組につながる

と良いと思う。

○ 資料2の35ページ「⑦シルバー人材センターの運営支援」について、登録者数が減っていることで、依頼があっても対応できないというような課題は生じているのか。

▲ シルバー人材センターの受託件数は、令和6年度は3,739件であり、令和5年度と比較して416件減少した。

基本的にシルバー人材センターの仕事内容に見合ったものであればお断りすることはないが、会員の高齢化と夏の暑さの影響で、屋外作業の仕事を見送ることが増加している状況は確認できている。

○ 再就職の相談の中で、70歳の方から「シルバー人材センターでは事務職の仕事はない。」と聞いたが、状況を教えていただきたい。

▲ シルバー人材センターの主な仕事として、トイレ清掃、除草、植木剪定、ハウスクリーニング等があり、またパソコンのサポートの仕事等も行っている。

○ シルバー人材センターでも事務職の仕事が充実すれば登録者数も増えると思う。またその周知も図っていただけると、より多くのアクティブシニアの市民が活躍できる場になると考える。

○ 資料2の37ページ「⑨地域生活支援拠点等整備事業」について、課題として「各事業所とのネットワークの構築や協力体制の整備が必要である。」とあるが、現在どのような状況が伺いたい。

▲ 令和6年度から、基幹相談支援センターを市内の社会福祉法人に委託をしている。そこを中心に、市内事業所等との連絡会等を開催し、地域で暮らす障害者の方を支援するための仕組みづくりの前段となる連携体制の構築に取り組んでいる状況である。

○ 介護保険サービスについて、高齢者が介護ヘルパーを依頼してもヘルパー不足という現状がある。市で運営補助等はないようだが、市の考えを伺いたい。

また、障害者の方が65歳に到達すると、介護保険サービスが優先され、障害福祉サービスで利用していたものが利用できなくなるということについても伺いたい。

▲ 市内の訪問介護事業所は増えてはいるものの、報酬改定に伴う報酬の減少があり、小規模の事業所については、特にヘルパーの確保が不安定である。

報酬に係る運営補助は、現在のところ実施していないが、国でも訪問介護事業所の安定的な運営について検討しているため、本市でも必要な取組を講じていきたい。

会議録の開 示・非開示 の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開 示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： ） <input type="checkbox"/> 非 開 示（根拠法令等： ）
----------------------	--

庶務担当課	企画財政部 企画政策課（内線：373）
-------	---------------------

（日本工業規格A列4番）